

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0792530016		
法人名	株式会社 福祉介護計画		
事業所名	グループホーム猪苗代 1階		
所在地	福島県耶麻郡猪苗代町大字蚕養字沼尻山甲2855		
自己評価作成日	平成21年6月29日	評価結果市町村受理日	平成21年9月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	960-8043 福島県福島市中町4番20号		
訪問調査日	平成21年7月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは自然環境豊かな中ノ沢に立地し、ホームの畑を耕したり、桜の苗を植えたり、四季折々の自然を満喫することができます。また、近くの温泉に行く事もでき、ゆっくりした時間の流れがあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

温泉地にある事業所で、自然環境は抜群で散策やバーベキュー、芋煮会など野外行事を通して地域との触れ合いがなされている。管理者の異動等により運営の厳しい時期を経過し、現在は代表者、管理者を中心に利用者支援に積極的に努めているため、外来者に対しても利用者自ら明るく話しかけるなど、馴染みの関係が得やすい和やかな雰囲気となっている。また、運営推進会議の活用により、職員の自衛消防組織体制に住民代表や民間の経営者が組み込まれ地域連携が図られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	見やすい所に掲示し、職員一人一人が理念に基づき実践している	スタッフ全員で意見を出し合って作成した理念であるので、一人ひとりがその内容を的確に捉えており、日常の支援に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々に畑作りを手伝っていただいたり、保育所の先生や子供達と交流を深めている	敷地内の畑での作業に地域の協力が得られており、冬期間の積雪についても除雪の協力を行政区から受けられる体制になっているのは心強い。近隣のホテルからは利用者はもちろん家族の宿泊時にも温泉の無料入浴を提供されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々と共に、奉仕作業を行ったり、地域の行事に参加している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	会議を開催し具体的な意見を頂き、サービス向上に努めている	会議は設置要綱により、構成メンバーを決定し、2ヶ月に一度定期開催されている。議事録には出席者の建設的な意見が記載されており、ホーム側も真摯に受け止めて、丁寧に回答・説明している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者で随時連絡を取り、相談をしてケアサービスに活かしている	町の担当者が運営推進会議に出席し、積極的に関わっている姿勢が見られる。	日常的な事務処理や運営推進会議への出席のみに限らず、ボランティアの派遣や町の職員の研修先として、日常的に情報を提供していくことなどで双方向からの理解が深まるものと思われる。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の禁止は、職員一人ひとりが心がけて取り組んでいる	玄関や居室の施錠、ベッドサイドの柵の取り付けなどは行われていない。しかし、身体拘束禁止についての具体的な行為の理解は不足している。	職員一人ひとりが指定基準に基づく身体拘束禁止マニュアルに対する理解を深めるため、早い機会に研修を行い、全員が認識を共有できるように努めてほしい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止は職員全体で話し合いをし、徹底している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全員が、よく理解しているとは言えず、支援体制が十分とは言えない 今後、勉強会等の機会を設けたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族に十分な時間をとり説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等の意見要望に耳を傾け、サービスに反映できるよう心がけている	事業所の運営が安定し、職員体制も整備され1年を経過しているため、利用者や家族は運営推進会議においても不満や要望ではなく建設的な意見を述べている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議を開催し職員の意見や要望を聞いて、ケアサービスに反映させている	代表者はホームの自主的な運営について理解があり、管理者が職員からの意見や要望を伝え執行できることから束縛感がない。資格取得のための研修についても適切に配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の状況を把握し、話し合い、各自が向上心を持って勤務できるよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の一人ひとりの状況に応じた、研修会等に参加し、全体会議で伝達研修を行って共有化を図っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修会等に参加し、意見交換をしてサービスの向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に利用者の情報をスタッフ全員で共有し、利用者が安心して生活できるよう支援している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方と十分に話し合い、連携を取りながら関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者にとって最優先しなければならない支援を把握し、可能な限り本人・家族の思いに柔軟に対応するように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のうれしい事、悲しい事、つらい事を共感しながら支え合う関係作りを努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会、誕生日会などの機会、面会時でよく話を聞き、家族の思いを受け止めながら利用者を支援するように努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が訪ねてきたり、訪ねたりできる支援に努めている	町で唯一のグループホームで、大部分が近隣からの入居者であり、職員も近くに居住している。家族・知人も頻繁に訪れていて日常生活に地域密着が活かされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係が円滑に生活できるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、いつでも連絡頂けるよう関係を大切にしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の中で利用者の言葉や様子から、本人の希望や意向を把握し、それに添えるよう努めている	東京センター方式の一部を活用し、暮らし方の希望や意向を丁寧に把握している。また、日常生活の言動からも意向を感じ取り、希望に添えるようケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人と家族から生活歴を聞き、その情報を職員で共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりに合った支援を行って、ケース記録・連絡票で利用者の現状を把握するように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族からの要望を取り入れ、また日頃の関わりの中から、職員の意見やアイデアを出し合い作成している	利用者の課題把握が適切に行われており、援助内容も具体的である。ケアプランに基づいた実施記録は分かりやすくモニタリングに連動しており、現状に即した介護計画になっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に記入し、業務前に情報の共有化、ケアを実践している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況にあったニーズに対応し、一人ひとりに合った支援をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの支援や保育所の行事の参加等、地域の人々にご協力頂いている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診体制が整っている	主なかかりつけ医はやや遠隔であるが、毎週2回医師、看護師が交互に定期的に往診しており、利用者の健康状態も把握されている。代表者が医療法人の役員であるため、緊急時対応の連携も十分図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状況を、看護師に伝えて相談しながら適切な受診等が受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族や病院関係者と情報交換し、状況を把握し、受入れ態勢を整えている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に関しては、家族の意向もあり、状況により変化するため、家族の方と話し合い確認していきたいと思う	入所時に重度化・終末期対応についての指針により確認・同意を得ている。今後は十分話し合いを行い家族等の意向を確認し、適切な対応に取り組むこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生に適切な行動がとれるよう話し合っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練とを実施、また全体会議で話し合い、万が一の場合の対応ができるように努めている	夜間想定も含めた定期的避難訓練を行っている。運営推進会議で協力をお願いし、事業所の自衛消防組織体制に地区の代表者や民間人が組み込まれ協力体制が出来ている。備蓄も整備されている。	なお、一階の非常口段差が著しいので工夫が必要だと思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を大切にし、誇りやプライバシーに気を配り対応している	採用時には秘密保持の誓約書を徴し、職員は利用者のプライバシーや守秘義務を理解し支援している。言葉遣いも利用者の誇りを損ねないよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに合った声かけを行い、自己決定ができるよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常の中で本人の思いをしっかり受け止め、利用者に向けた暮らしを支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事や外出の時は、本人の好みを大切に、おしゃれを楽しんで頂けるようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	利用者と一緒にメニューを決め、調理等も一緒にやっている	職員と一緒に調理や配膳、後片付けなど利用者が自主的に行っている。地域の方から頂いた食材を話題にしながら、職員も一緒に食事をしながら楽しい時間を共有している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事・水分の摂取量を確認し、記録している メニュー表を確認し、バランスを考え工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・昼・夕食後に必ず口腔ケアをするようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パット等は、排泄状況を確認しながら最小限にし、排泄の自立を支援している	排泄チェック表に利用者の排泄状態を記載し、誘導時間の目安にしながら、さりげなく誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各利用者の状況に合った予防を心がけている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望に合わせた入浴を心がけ、入浴剤で気分を変えている 近くの温泉に行く事もある	入浴はいつでも利用者の希望に合わせて利用でき、状態に合わせて個別の入浴支援を行っている。無料で提供する温泉入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者ごとに状況を把握し、安眠が得られるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師からの指示、処方内容に基づき、職員全員が服薬の支援と症状の変化に対応している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の状態に応じて、針仕事、畑仕事、山菜取り、新聞折り、洗濯たみなど、意欲を引き出すような支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	できる限り利用者の希望に添えるよう支援している	自然環境をフルに活用し散策や外気に触れる機会を多く取入れている。ドライブや買い物、観光など外出の機会を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の場所を忘れてしまうので、ホームの方で預かっているが、使えるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも家族や大切な人と電話をしたり、手紙を出せるようにしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに季節の花を飾ったり、音楽やテレビの音、日光には日頃から常に配慮している	ペンションを改装した建物はリゾート感があり、リビングからは清涼な外気を感じることができる。利用者は落ち着いていて非常に人懐っこく、通路に飾られている折り紙細工について積極的に説明・案内してくれた。利用者同士が姉妹のように親しくしている様子も印象的であった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、コタツ、テーブルの配置を工夫し、自分の好きな場所で自由に過ごせるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	使い慣れた馴染み物や、好みの物を置いて、居心地よくゆっくりと過ごせるように工夫している	居室にはベッド、家具が個人の好みを生かしながら効率的に配置されている。介護度の軽い利用者が自身のお祝いなどの写真や家族からのメッセージを額装して飾り、その中で毎日の「仕事」として日めくりカレンダーから諺などを便箋に書き写している様子を親しく案内してくれた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	建物内部は、安全で自立した生活が送れるように工夫している		

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム 猪苗代

記入担当者名 横山 喜美子

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。